



— 学校と地域とが連携し、  
地域全体で子どもたちを見守  
り育てよう — そんな温かい気

持ちを込めて、今年度もコミュ  
ニティスクール事業での交流  
の取組みが始まっています。



蚕糸公園では、みんなで「変顔!!」で記念写真

清水小2年生の  
児童と、住民の方  
14名とで蚕糸公園  
や桜町公園、槻井  
泉神社などへ町探  
検に出かけまし  
た。普段の学校内  
での授業から解放  
されて弾けた笑顔  
と、自由奔放な行  
動力。「一緒に遊ぼ  
う、一緒に走ろう」

5/19  
22

町探検

清水小・中学校  
と地域の方とが連  
携し、書道やしめ  
縄作り、一昨年か  
ら始まった豆腐づ  
くり体験など、様々  
な取組みを行って  
います。今年度は  
新たに、街探検  
(ウォーキング)で  
の交流の取組みも  
開始しました。



▲縄手通りでは不思議な  
物を大捜索!

清水小4年生と、縄手・中  
町不思議探し探検に出かけま  
した。縄手通りに到着すると、  
1人ずつタブレットを手に持  
ち、写真撮影タイム。蛙や虫  
顔出しパネル、軒に吊るされ  
た鮭と、子どもたちは次々に  
不思議な物を見つけ出しま  
す。普段の生活ではやり過ご  
してしまいう光景を、いとも簡  
単に見つけ出す子どもたちの  
感性に大人はタジタジ。終始

6/26

不思議さがし探検



▲槻井泉神社では鯉探しに  
夢中です

## 各種講座 催し 実施しています!

東部公民館、福祉ひろばでは、「みなさんのやりたい」を応援  
する各種催しを開催しています。その一部をご紹介します。



4/24 健康づくり講座 明科廃線ウォーク



5/13 食の体験講座



6/11 からだ楽 運動系ストレッチ教室

振り回されっぱなしなのに、  
なぜか元気をもらいました。

7/9 博物館探検

市立博物館探検では、4年  
生児童と5名の地域の方とが  
一緒に、館内のジオラマを眺  
めながら、松本の歴史を改め  
て勉強をしました。江戸時代  
の松本の街並み、それぞれの  
街の役割や名前の由来などを  
子どもたちと一緒に学びます。  
近頃の小学生は難しいこと  
を学んでいるんだなと感じす  
るだけでなく、大人たちも少  
しだけ賢くなって帰ってきま  
した。



▲街中は子どもたちの興味を惹くもので  
溢れかえっています

公民館では今後もコミュニ  
ティスクール事業を展開して  
いきます。これからも子ども  
たちの笑顔溢れる地域になる  
ように、ご協力をお願いしま  
す。

# 松本城とわたし

題字 三代澤 東麟

今回は、SOさん(東部地区内・68歳)から寄せられた松本城の思い出をご紹介します

遠き別れに たえかねて  
この高樓にのぼるかな  
悲しむなかれ 我が友よ  
旅の衣をととのえよ

「ご存じ小林旭「惜別の歌」の一節だが、松本城というところのフリーズが思い出される。

高校の卒業式を終え東京に発つにあたり、雪の松本城を訪れ故郷に別れを告げる者の姿が重なる。この歌の原作は島崎藤村の処女詩集「若菜集」高樓(たかどの)の一節だそう。

春 高樓の花の宴  
巡る盃 影さして  
千代の松が枝 分け出でし  
昔の光 今いずこ

もう一つ、なじみの「荒城の月」は、作詞の土井晩翠が会津鶴ヶ丘城、作曲の滝廉太郎が豊後竹田の岡城をモチーフにしたそうで、当然ながら前曲同様、松本城とは無関係であろうが、これらの歌が

流れるとき、頭の中には故郷のシンボルとして松本城の姿が在る。我が家にとって松本城は七五三、入学式、卒業式、成人式等々、家族の節目節目に訪れポーズをとる場所だった。ことに雪をかぶった北アルプスを背景に立つ城の姿は記念の日を記録するにふさわしい景色と思う。



町場に住む我々にとって外出(遊び)は今と比べて、ささやかなもので「はやしや」「井上」の屋上ゲーム時は少し遡って中央公園と言ったか、お城の遊園地であった。おサル電車はご愛敬で、私は電池で走

る豆自動車に執着した。頭の上には飛行機があったか。ちよつと特別な日に過ごす場所だった。

よほどの事ではあるが、第一会館のビアガーデンが5月の連休にはオープンして、コタツに入って寒さに震えてビールを飲んだ気がする。盆踊りにはよく足を運んだが、子ども心に夏の終わりの哀愁と、照明が薄暗く閑散として、何かうさん臭さが漂った。今は何といつても犬の散歩コースとしてお世話になっている。

近年は城をスクリーンに見立てたプロジェクションマッピング、蕎麦祭り、太鼓祭り等イベントでの活用も盛んで、外堀の復元工事も完成が楽しみである。これからの松本城を考えると、外国人を含めた観光需要への備えも当然ではあるが、「松本城」が地域に暮らす我々住民の折にふれて足を運ぶ「ちよつと特別な場所」であり続けてほしいと願う。

## 「松本城とわたし」投稿募集中

松本城に関する「思い出」や「写真」など、皆様からの投稿お待ちしております。投稿記事は800字程度、宛先は東部公民館館報編集委員会事務局(☎36-8565 東部公民館内)まで。詳細はお電話にてお問合せください。

## 松本城をもっと知ろう 「お堀の浚渫講座」開催



▲お堀に注目! 浚渫船が水面で作業中です

公民館では、東部地区の心のシンボル松本城をもっと知ろうをテーマに、松本城に関する講座を開催しています。5月23日(火)には、松本市松本城整備課の玉川さんを講師にお迎えし、「お堀の浚渫について学ぶ講座」を開催し、25名が参加しました。令和5年度から7年の歳月をかけ行われている浚渫により、お堀をどう甦えらせていくのか、座学と現場見学の両面から浚渫工事の概要について学びました。

座学は、松本城の堀の構造や、過去に行われた浚渫の状況、学術調査の結果や、それらを踏ま



▲堆積物の主成分は藻などの植物性の物なので案外軽量なんです

えた上で選定された浚渫工法の解説、今後の進め方などの説明を受けました。

座学の後には現場へ出向き、実際に浚渫を行っている作業の様子を見学しました。沈殿し泥化した藻などが主成分の堆積物を浚渫船のポンプで静かに吸い取り、長いパイプを経由して脱水装置に送り込み、固形物にして廃棄する一連の流れを見て学習しました。

固形化された堆積物を実際に手にした参加者は、「思ったより軽い! 粘土みたいだね、植木鉢とか作れそう!」(新村昌弘さん・東町2)と興味深げに話していました。

東部公民館ではこれからも松本城に注目した企画を皆さまにお届けしてまいります。